JAFXボーツWEB

2018年JAF全日本ラリー選手権第6戦 2018 Sammy ARKラリー・カムイ [JAF公認No.2018-8004]

開催日:6月29日~7月1日 開催場所:北海道 格式:国内 主催:TEAM ARK [クラブ登録No.加盟01008]

フォト/加藤和由、水野文幸、中島正義、JAFスポーツ編集部 レポート/ JAFスポーツ編集部



グラベル5連戦の真っ只中となる全 日本ラリー選手権第6戦「ARKラ リー・カムイ」が開催された。

この大会は昨年まで洞爺湖町を拠点としていたが、今年からニセコ町や倶知安町、蘭越町に舞台を移してリニューアル。元々良好なダートを走れる大会のため、56台の参加があった。

そして今回は、目玉として22.91kmのロンググラベルを設定。大きな勝負所となった。

ラリーウィークは、地域のランドマークであ

る羊蹄山も拝めない雨模様で幕を開けた。しかし、レグ1が始まると天候が回復し、夏を思わせる日照に恵まれる。ところが、レグ2では再び雨となり、多くの参加者が頭を悩ませた。

今シーズンのJN4は、序盤のターマックでは山口清司選手や山本悠太選手、曽根崇仁選手 586勢が勝利を分けていたが、グラベル連戦に入って、FN2シビックタイプRを駆る上原淳選手が台頭。第5戦モントレーで優勝を飾り、意気揚々と第6戦カムイに乗り込んできた。

上原選手は元々グラベルを得意としており、 近年の全日本ラリーではスポット参戦を続けて きた。それが今年はターマックの第2戦唐津か ら参戦し、シリーズを追うことになった。

第6戦カムイは、上原淳/漆戸あゆみ組が ウェット路面のオープニングステージで2番手 に3秒以上の差を付けて好スタートを切った。

11.24kmのSS2でも2番手に約5秒差、SS3でも3秒以上の差を付けてリードを拡大。午後に入っても好走を続け、レグ1では2番手の関根正人/草加浩平組に約19秒差を付けた。「オトナの走りでしょ(笑)。1ループ目はフラットダートでしたが、新しい5キロのステージはフカフカだったので、2ループ目は走らせ方を変えました。11kmの道は路面がしっかりしてたので踏めましたね」とは上原選手。

初日は陽の当たる路面は砂埃が上がるドライ 路面となったが、乾き切らない場所では、深い







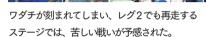




JN4 / 1.グラベル連勝でJN4のシリーズ首位に立った上原淳/漆戸あゆみ組。「今年はチャンピオンを獲りたいので、SSベストより円熟した走りを披露します」とは上原選手。2.レグ1では思わぬトラブルに巻き込まれた関根正人/草加浩平組だが、3度のベストを奪ってJN4の2位。3.表彰台争いに食らい付いた山本悠太/北川紗衣組がJN4の3位。4.好走していたJN4高橋悟志/覧作裕子組だったがSS10の遅れで4位に沈んだ。5.SS6でレグ離脱となった曽根崇仁/大庭正響組。再出走したレグ2ではちゃっかりサミー賞をゲット。







レグ2は4ステージ。しかし、22.91kmのロングステージを2回走行する行程のため、勝負はレグ2で仕切り直しという雰囲気だった。

上原/漆戸組は、最初のロングステージで2 番手に6秒以上の差を付けてダメを押した。

残る3本のステージでは2番手の関根/草加組が2度のベストを奪ったが、上原/漆戸組も2~3番手につける"オトナの走り"で応戦。「サミー賞」が懸かった2回目のロングでは、レグ1での離脱後に再スタートしていた曽根崇仁





JN6&JN1 / 6.7.JN6優勝は新井敏弘/田中直哉組。「レグ1はドライになるほど離されて苦しい戦いだった」と語った新井選手だが、鎌田選手を逆転してグラベル3連勝を飾った。「レグ2の1本目の22kmで鎌田選手を逆転して『これはイケる』と思ったけど、勝田選手が5秒速くてヤバかった。8kmのステージでは勝田選手を5秒離せてるのに、何でかなという感じ。路面とタイヤのマッチングかもしれないね」と首をかしげた。8. 初日のドライ路面と日曜の22kmで驚きの速さを見せたJN6勝田能彦/石田柗ー組が2位。サミー賞を獲得。9. レグ1首位の鎌田卓麻/市野諮組はSS9で痛恨のドライビングミス。JN6の3位に終わった10.JN1の2位は須藤浩志/新井正和組。11.JN1の3位は小川剛/藤田めぐみ組。12.13. フルポイント獲得で今季3勝目を挙げたJN1古川寛/廣田幸子組。古川選手は「レグ2冒頭の2本まで頑張って、そこで勝利を確信しました。残り2本は走りが中途半端になっちゃいましたね。グラベル5連勝を目指してたので残り2戦は獲ります!」と気合十分。

/大庭正璽組がベストを奪取する"まさか"の 展開となった。

これでJN4は勝負アリ。結局、2位の関根/草加組に11.1秒差を付けた上原/漆戸組が優勝。連勝でJN4のポイントリーダーに立った。「クルマがすごくいいんですよ。グリップで行きたかったらグリップしてくれるし、流そうと思ったらちゃんと流れてくれる。自分的にコントロールしやすい状態になってるんです。

ラリー前には『ブーンX4が2台いるし、関根 くんは地元だし、香川くんは昨年速かった。コ コは3位か4位くらいかな』と思ってました。

でも、レグ1の1周目ではベストが獲れて、2

周目では追い付かれたけど何とか逃げられた。 今回の勝負は22キロだと思ってたので、レグ2 最初のステージは頑張って踏みました(笑)。

それで20秒以上の差が付きましたが、決して安全じゃなくて、キロ1秒でヤラれちゃう。

だから、残り3本をどう走ろうか悩みました。 部分的に舗装があって、そこは泥が被っててか なり危なかったので、そこだけペースを落とし て、踏めるところで踏みましたね。

いやー、オトナですよ、オトナの走り(笑)。 やっとラリーで"成人式"を迎えられました」



JN3 / 16.17. 天野智之/井上裕紀子組がフルポイント獲得で今季5勝目。天野選手は「昨年使った道は路面が良くなってましたが、雨の影響で全体的には厳しかったです。ワダチも深かったし、案外パワー勝負にもなりました。実はウチのヴィッツは2速のシンクロが弱ってて、2~3速メインの道ではCVTが速かったですね。クルマもガタガタ言い出しましたし、やっぱグラベル5連戦は厳しいですよ」と苦笑する。18.1N3の2位はCVTヴィッツの大倉骸・豊田耕司組。19.1N3の3位は新造したデミオで挑んだ松倉拓郎/猿川仁組。20.1N3の4位は関東の藤田幸弘/藤田彩子組。21.ラリー洞爺のクラッシュから今季復活した岡田孝一/多比羅二三男組。2年ぶりのリベンジとなるこの一戦は5位で無事完全